

ろまんばなし

建設浪漫譚

シリーズ
1

～偉人と建設～

竹内明太郎と西洋館



龍ヶ崎市若柴町、蛇沼のほとりに佇む赤いレンガの建物は「竹内農場西洋館」と呼ばれる。竣工からこととしてちょうど100年。屋根は落ちて主要な構造物は劣化が著しい。だが、当時最上級製であったという赤レンガは、竣工当時モダンな装いであったろうことを想起させる。西洋館を建てた竹内明太郎は吉田茂元首相の兄に当たり、コマツ(株)小松製作所の創業者としても知られる優れた実業家であった。明太郎が築いたこの竹内農場西洋館は、先進的な試みや個性あふれる構造など多くの魅力を有する。本稿ではその魅力の一端を紹介したい。

【取材協力：NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会】

最上級の赤レンガ造

竹内農場は、明太郎が経営する茨城無煙炭鉱へ大麦、小麦、甘藷、馬鈴薯などを供給する役割を果たすためつくられた。常磐線を使い、これらの作物を炭鉱へ運んでいたという。また、西洋を模した近代的な農場経営にも挑戦していたようだ。

西洋館は明太郎の別荘として建てられた。竣工は1920年(大正9年)で、設計請負は太田園七建築部。建物は東棟(住居)がレンガ造2階建地下1階、寄棟屋根瓦葺。床面積は1階2階いずれも67.09㎡。西棟はレンガ造平屋建て、切妻屋根瓦葺 67.61㎡。ホールや居室のほか、養蚕のための蚕室があったという。

建物の構造はレンガの小口と長手を交互に積んでいく「オランダ積み」によるもので、鉄骨や木骨を用いない。

レンガを用いた西洋風の建築様式でありながら屋根は日本製の屋根瓦を用いる和洋折衷様式であることが特徴だ。

また、使われていたレンガは埼玉県深谷市にあっ

た日本煉瓦製造(株)製のものであった。日本煉瓦製造は、日本で初めて機械製レンガの大量生産を可能とした企業で初代会長は実業家の渋沢栄一。東京駅や東宮御所(現迎賓館赤坂離宮)にも同社のレンガが用いられていることから当時の最高級品であったことがわかる。

風光明媚な庭園の計画も

さらに、西洋館の周囲には美しい庭園の整備も計画されていたようだ。実際にどこまで実現したのかは不明だが、長岡安平による設計図が現存している。

長岡安平は芝公園や飛鳥山公園を設計監理した当代随一の造園技術者であった。仮に西洋館の庭園整備が実現していたとすれば、桃源郷ともいえるべき風光明媚な景勝地がこの地に存在していたのかもしれない。

このように、最高級の技術や建築資材が使われた竹内農場西洋館だが、その存在は長い間地元の人々にも知られていなかったという。昭和の中ごろから放置され、具体的な保存活動なども行われないうまま、



竣工当時の西洋館

西洋館は徐々に朽ち果てようとしていた。

転機となったのは、発電会社が西洋館建設地の土地を購入し、太陽光発電事業を開始しようとした2014年ごろのこと。龍ヶ崎市が電力会社と交渉して土地を賃借することができた。建物を龍ヶ崎市が所有することとなったため、保存への道が開けた。

「NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会」(前田享史理事長)は貴重な文化財である西洋館の保存活動に奔走。イベントの開催や記念冊子の発行などを行い、PRに努めてきた。その甲斐もあってか、西洋館はことし龍ヶ崎市民遺産に認定された。

わが国の近代化に大きく貢献した実業家が、当時最高級のレンガを用い、当代随一の造園技術者が庭園の設計を行う。当時の日本の習習を結集したかのようなこの施設は、まさにロマンの宝庫と言えるだろう。

【資料提供：龍ヶ崎教育委員会】



現在の西洋館

今回は7回に分けてお酒についてお話ししたいと思います。
1. ビールの歴史
ビールの原型は一般にシメール人によるメソポタミア文明の時代から作られたとされています。紀元前3500年〜3000年頃です。シメール人がビールを飲んでたという事については、紀元前3000年前後の「メニムン・ブルー」と呼ばれる粘土板の記録が有名です。楔形文字で「ビール作りの様子」が描かれており、これが一般に「最古のビール作りの明確な記録」として知られています。



知って得する！
+ 名医のアドバイス

紀元前1700年ごろ、「目には目を」「歯には歯を」で有名な「ハムラビ法典」がハムラビ王(紀元前1726〜前1686年)によって制定され、ビールに関する法律も細かく定められています。その

メンポタミア文明より多少後になり「歯には歯を」で有名な「ハムラビ法典」がハムラビ王(紀元前1726〜前1686年)によって制定され、ビールに関する法律も細かく定められています。その

+ 建設現場クリニック
(産業医・樹元 武)

優秀施工の5社に荣誉

大洗町/優良建設業者表彰



大洗町は7月30日、2020年度優良建設業者表彰式を町役場3階会議室で挙行政した。同町の表彰は今回で3回目。昨年度に完成した工事33件の中から、特に優良な施工技術で施工した5社に対し、小谷隆亮町長(写真上)が表彰状を授与した。

小谷町長は受賞者を称え、「皆さま方には東日本大震災の復旧・復興をはじめ、大変立派な仕事をさせていただき感謝申し上げます」と謝意を表した。

また、来賓の小沼正男町議会議員も「業界一丸となって、なお一層の技術向上に努めていただきたい」と期待を寄せた。

受賞者を代表して、(株)田口工務店の田口誠壽代表取締役(写真下)は「大洗町の安心・安全な生活基盤整備のため、決意を新たに業務に尽くしてまいります」と謝辞を述べた。

受賞した5社は次のとおり。

- 愛功建設(株)■(株)田口工務店■(株)大貫工務店■(株)オカダ電機■(株)菊地工務店



3社3JVに荣誉

取手市/建設業者表彰



取手市は2020年度市優秀建設業者表彰式を7月29日に取手ウェルネスプラザ多目的ホールで挙行政した。本年度荣誉に浴したは土木部門が大竹建設(株)、赤塚工業(株)。建築部門が赤塚工業(株)・常陽建設(株)JVと(株)コウキ建設。その他部門が暁飯島工業(株)・大野産業(株)JVと東進電気(株)・(株)中山電機JVの3社3JV。

表彰式は感染症対策に十分留意した上で実施した。冒頭、あいさつに立った藤井信吾市長(写真左)は「素晴らしい施工をしていただき感謝申し

上げる。地元建設業の皆さまが持続的に事業を行っていただくことは、地域経済の活性化という面からなくてはならないもの。現在はコロナウイルス感染症拡大防止という観点からもご苦労されていると思うが、市としてもしっかり支援してまいります」と決意を表明した。

吉田雅弘副市長による審査経過説明の後、各社へ表彰状を藤井市長が授与した。

受賞者を代表して赤塚工業(株)の赤塚康伸代表取締役(写真右)が「受賞はこの上ない名誉であり



喜び。ことしはコロナウイルスの感染拡大により、われわれ建設業界を取り巻く環境も大きく変化した。今後は一部の業務にテレワークを採用するなど環境の変化に柔軟に対応し、魅力ある企業を目指して施工技術の研さんに努め、取手市の発展に貢献してまいりたい」と謝辞を述べた。



て施工・工事にかかってほしい」とあいさつした。

その後、表彰を受けた企業の代表者は、それぞれ表彰に対する謝意、今後行う工事への意欲などを示した。

表彰部門は第1、2、3、4、水道部門の5部門。対象工事は、19年度に完成した市発注の建設工事で請負金額130万円以上。



5部門から6社受賞

筑西市/優良建設工事表彰



筑西市は7月29日、2020年度優良建設工事請負者の表彰式を開催した。本年度の受賞者は、(株)小葉建設、(株)常陽建設、吉江総業(有)、島田設備(株)、(株)須藤工業、(有)須藤設備の6社。須藤茂筑西市長(写真)からそれぞれの代表者へ表彰状が手渡された。

須藤市長は「皆様には卓越した技術を用い、施工管理もしっかり行って頂き、安心安全な工事をして頂いた。大変ありがたく思っている」と謝意を述べ「皆様方の会社のますますの発展を祈念している。今後とも表彰を受けた皆様は、自信をもっ

- 事故の型II 墜落・転落
- 発生日時II 10月 午後3時〜4時
- 死亡者II 経年数30年の60歳代(大工)
- 事業の種類II その他の広告・あつせん業
- 起因物II はしご等
- 災害の概要II 木造平屋建ての事務所軒下の補修作業中、高さ1.7mの脚立から墜落して死亡した
- 原因II ① 墜落時保護用の保護帽を着用させて

過去から学ぶ

事故災害事例 25



いなかた②労働者に
対し、墜落・転落防止
に係る十分な安全教育
を実施していただく
☆対策II ①作業中に墜落
時保護用の保護帽を着
用させる②脚立を単独
で使用せず、脚立足場
や手すりのある可搬式
作業台へ変更する③高
所作業に従事する労働
者に対し、墜落・転落
防止に係る安全教育を
実施する
出典II 茨城労働局